

郷土を学ぶ

吉小4年生
郷土資料館で

昔の昔前のくぐりは



事前学習で「昔の昔前のくぐり」について調べたこと、実際に郷土資料館を見学してわかったことと比べ、昔前の人々がどのように暮らしてきたのかを知ることが、昔前小学校の4年生11人が、10月18日午前9時30分、教諭2人に引率され郷土資料館を訪れ、展示物の説明を受けた。

説明者は郷土史研究会の野澤哲美会長が担当した。展示物を熱心にメモをとったあと質問に移り、資料館には何種類の展示物があるのか、「昔よく使った農具や漁道具は何ですか」「アイヌはいづごろから北海道にいたか」「アイヌの暮らしと衣服や狩りのしかたは」「どのようについて熊を追い払ったか」「熊事件は」「...」など、生徒たちは目を輝かせ積極的な質問が次ぎつぎと飛び出した。

たった1時間30分の短い時間であったが、充実した学習であったと感じられた。終了後、郷土史研究会から三つのお願いとして①物を大切に使うこと②人に對して思いやりを持つこと③努力を重ね一生懸命と取り組むことをお願ひし学習を終了した。このあと学校で感想文を書いて新聞を作成する予定です。

は成研究の事業と
完成後は来年の各種イベントなどで展示公開します
のて、町民の皆様には約66年前の昔前と古丹別を懐かしんでください。
12月並地街
中完成の運び

さらに煌々しく



専用ケースの中で

・興行ぎ88センチ、3面ガラス張り、紫外線遮光、温度・湿度管理、免震、防犯センサーなどの機能を備えている。
・特注で費用は267万円。
・上下から照明が当てられ、高さ60センチの観音立像の奥深い表情や頭頂にある菩薩や

郷土資料館

・今年の入館者は、3,482人(前年比625人増)特別展やテレビ放映の効果と思われる。

・雨降りの日、町外の男性の方が約3時間も館内においてから初山別の方へ向った。

・子供が「どうして壁にボールをぶつけたら駄目なの」と聞いてきた。

怒りの面など細部がきれいに浮かび上がり、更に煌々しく輝いて見えた。期間中、仏像に関心のある多くの人達が鑑賞に訪れた。

また、仏像の解説パネルや貴重な関係資料も展示されたが、その中に古丹別で写真館を営んでいた故西義高さんが、以前この仏像が安置されていた金室院を描いた絵が添えられ訪れた人達の目を引いた。



毎週木曜日午後8時から9時半、T.V.アンビリーバボーの番組で、8月18日、吉前町の「熊事件」の様子を放映され、各方面から反響を呼んだ。

吉前町ゆかりのあった作家、吉村昭さんの特別展がたいへん好評であった。

あなたも郷土史研究会に入会してみませんか。(吉前町公民館へ)お待ちしております。

町民の皆様には、年々発行の「まひがわら版」を興味深くお読みいただき、大変ありがたうございます。迎える新しい年は皆様のご祈念申し上げます。